【様式C　別添C－1】

青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」
自己肯定感向上プロジェクト

食育・農育・木育体験を通して自己肯定感を育む体験活動プロジェクト

都会と田舎を結ぶ食育ネット

【事業のポイント】

○自然豊かな愛媛県南予地域での自然体験活動

○大学生スタッフによる子どもの支援活動

○年間を通した継続した体験活動の推進

○地域の方と連携した地域協働活動

お餅つき（みんなでワッショイ）

1．企画

（1）事業実施の背景

農林水産業である一次産業は、関われば関わるほど正直に育つものである。とはいえ、関わり方次第では、マイナスになるものでもある。自己肯定感を高めるための体験活動としては、最も適なものである。本団体では、平成18年度から、食育・農育・木育体験を通して、積極的に自然体験活動を推進してきた。参加者はのべ子どもたちの参加者は延べ1500人、支援する大学生も500人を超えている。体験活動の推進という面では一定の成果を上げてきたが、活動開始から10年を過ぎ、今一度、意義の再確認をすることと、代表が多様な青少年と関わることが多くなり、青少年の育成について、改めて考えさせられることが多くなった。

（2）ねらい

団体構成員も10年を超える経験値をもとに、次の段階へステップアップする必要もあると考えるようになった。単なる体験活動ではなく、体験活動の結果を数値化して、成果を見える化する必要性があると考えた。平成30年度は二次募集での採択であったので、ほぼ半年間の体験活動であった。一次産業は、年間を通した継続した体験活動で成り立つものであり、単なる経験だけでなく、振り返りをしっかりすれば、自己肯定感を育むには最適のものである。サポートする学生も学ぶものが多く、体験活動の参加者ともにWIN－WINの関係が成り立つものである。また、代表の関係者からのアプローチで様々な境遇の生徒との関係もあるので活用したい。

2．実施概要

（1）実施主体（運営体制）

委員長：小田清隆（団体代表：大学教員）、副委員長：福田幸男（大学教員・心理学）・白石薫二（元文部科学省職員）、委員：郡司菜津美（大学教員・心理学）・冨田英司（大学教員・心理学）・皆川勝子（短大教員）・上江洲慎（NPO法人鎌倉てらこや事務局長）・中林数貴（てらこや学生代表）、委員：鈴木実（NTT関係会社）・小池一成（NTT関係会社）・小市聡（横浜市立横浜総合高校校長）・池上慎吾（神奈川県逗子市立小学校教頭）・清水義郎（松山市児童厚生員社会福祉士）・山本拓哉（通信制高校高校教員）・池田智子（児童養護施設職員）学生スタッフ：愛媛大学学生・鎌倉てらこや所属学生

（2）開催実績

月　　日	内　　容
9月15日	初秋体験（稲刈り・はざかけ・ピザづくり）親子参加（保護者等10名、小学生22名）
10月6日～8日	秋体験（２泊３日）小学生13名参加、スタッフ12名、児童養護施設より生徒5名
11月3日	晩秋体験（柚取り・加工、11/3日帰り）保護者1名、小学生8名、スタッフ5名・小田
11/7・12/22	伐倒作業（クヌギ・ナラ等の落葉樹（椎茸栽培用）、玉切り作業（椎茸栽培用、薪用）
1月5日～7日	冬体験 小学生18名、スタッフ11名（前泊学生スタッフ6名 当日2名、白石・鈴木・小田）
1月31日	通信制高校生徒と大学生の交流－プランターへの花苗植え　生徒10名、大学生スタッフ9名
2月23日～24日	建長寺食育合宿　2/23・24　小学生59名、大学生スタッフ86名、支援保護者30名
3月2日	ネイチャーランドで遊ぼう（親子参加　31名）前泊・当日学生スタッフ7人

（3）具体的な取組の概要

本団体のこれまでの体験活動は、小学生対象の2泊3日から3泊4日の自然体験活動が主であった。今年度は親子体験、日帰り体験、通信制高校生、児童養護施設生など、多様な体験・対象とし、事業を展開した。具体的な活動については、添付の活動写真を参照ください。

（4）新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

本団体の体験活動については、子どもたちや保護者からも高い評価を受けており、体験参加者もいつも想定数を超えている。しかし、満足度や成長の度合いを数値化してこなかったため、活動によって子どもたちが何を得られたかを見つめることができなかった。今回IKR調査用紙を利用して数値化することで、子どもたちに「生きる力」が確実に身につき、経験値も継続していることが証明できた。今後も、体験活動を何とかして継続させていきたい。

3. 成果と課題

（1）事業成果

IKR調査用紙によるアンケートを見てみると、体験後に低下した能力はなく、体験実施の意味は十分にある。安定して伸びているのは「心理的社会的能力」である。自然体験活動であるから、「徳育的能力」「身体的能力」も伸張している。本団体では、学生スタッフに頼ることが多いが、それだけに学生と子どもたちが関わる時間が多いほど全ての能力が伸びている。児童養護施設の生徒や通信制高校の生徒との交流についても、本団体の学生は、これまでの経験を活かして、相手目線で対応することができている。体験参加者だけでなく、スタッフ学生についても効果のある事業であったと考える。

（2）事業運営上の課題

一次産業を対象とする体験活動については、年間を通したプログラム開発が必要である。30年度は、残念ながら追加公募での採択だったので、前半の体験が飛んでしまったことが残念である。ただ、後半には濃密な体験活動ができたことは間違いない。IKR調査をするということで、学生たちにもいい意味で緊張感も持たせることができたし、調査結果での評価が学生スタッフを中心とした主催者側にとってはやりがいのあるものであった。ただ、学生の能力も向上しているのだが、それを推し量ることができなかったことが残念である。今後は学生スタッフの能力の測定を考えたい。

（3）事業成果の普及啓発の課題

本団体が実施してきた活動は、まさに自己肯定感を高めるための事業であったと思われる。ただ、これまでは、小学生を主体とした事業であったものを、今後は、年齢を上げていく必要があると思われる。自己肯定感を高めることは生きる力につながると考えるが、それは中学生・高校生・大学生まで継続して養うことが大切である。ただし、本団体が行っているように、高大生になればスタッフとして、立場を変えて行うことが必要である。そのような学び合いの場面を多く作りたいと思っている。

4. 団体プロフィール

平成19年愛媛県愛媛大学付属農業高校と横浜国立大学付属鎌倉小学校との教科外活動で始まった活動を支援する組織として設立。周囲の協力を得て、活動範囲、対象の子どもたちを拡大しつつ、子どもたちの自然及び一次産業体験活動を支援し豊かな心を育む組織として発足。平成20年度からは、四季にわたるプログラム及び広域グリーンツーリズムとして展開している。学生スタッフの力を最大限活用し自然体験活動を進めている。ここ最近は、小学生の体験活動を進めるだけでなく、多動や発達障害のある子ども、児童養護施設・通信制高校の生徒との体験交流を進める活動も実施している。

自然豊かな場所に立地する団体

〒791-3321　愛媛県喜多郡内子町川中868　℡090-6280-6177
http://syokuikunet.web.fc2.com/　　代表　小田清隆